

東京工業品取引所原油先物の最終決済価格およびアジア向け中東産原油価格

東京工業品取引所

2008年3月

1. データ

東工取原油最終決済価格

| 限月 | 円 / kl | \$ / bbl | 月間平均為替レート |
|---------|------------------------|------------------------|-----------------------|
| 2008年2月 | 60,940 (前月比 +1,370) | 90.352 (前月比 +2.394) | 107.24 (前月比 -0.44) |
| 2008年1月 | 59,570 | 87.958 | 107.68 |

最終決済価格 = { (ドバイ原油月間平均価格 + オマーン原油月間平均価格) ÷ 2 } × 月間平均為替レート ÷ 0.159

2月積みアジア向けサウジアラビア産 DD 原油価格

(単位: \$/bbl)

| 油種 | 東工取最終決済価格 | 調整額 | DD 原油価格 |
|---------------|-----------|-------|---------------------|
| アラビアンスーパーライト | 90.352 | 6.05 | 96.402 (前月比 +1.394) |
| アラビアンエクストラライト | | 4.95 | 95.302 (前月比 +1.994) |
| アラビアンライト | | 1.55 | 91.902 (前月比 +2.194) |
| アラビアンミディアム | | -1.75 | 88.602 (前月比 +2.494) |
| アラビアンヘビー | | -4.80 | 85.552 (前月比 +2.694) |

(参考) 1月積みアジア向け中東産 DD 原油価格

(単位: \$/bbl)

| 国 | 油種 | 価格 | | 1月限最終決済価格との差 |
|--------------|---------------|-------|------|--------------|
| | | | 前月比 | |
| サウジ アラビア | アラビアンスーパーライト | 95.01 | 3.25 | 7.05 |
| | アラビアンエクストラライト | 93.31 | 3.05 | 5.35 |
| | アラビアンライト | 89.71 | 2.35 | 1.75 |
| | アラビアンミディアム | 86.11 | 1.45 | -1.85 |
| | アラビアンヘビー | 82.86 | 0.65 | -5.10 |
| イラン | イラニアンライト | 90.06 | 2.35 | 2.10 |
| | イラニアンヘビー | 86.02 | 1.50 | -1.94 |
| アラブ 首長国連邦 | マーバン | 92.25 | 1.65 | 4.29 |
| | ロア・ザクム | 92.30 | 1.60 | 4.34 |
| | ウムシャイフ | 91.50 | 1.60 | 3.54 |
| | アッパー・ザクム | 88.20 | 1.70 | 0.24 |
| カタール | カタール・ランド | 91.37 | 1.60 | 3.41 |
| | カタール・マリン | 88.54 | 1.64 | 0.58 |
| イラク | バスラライト(参考価格) | 86.46 | 1.50 | -1.50 |
| クウェート | クウェート | 85.81 | 1.45 | -2.15 |
| 旧中立地帯 | カフジ | 82.86 | 0.65 | -5.10 |
| | フート | 89.11 | 2.35 | 1.15 |
| オマーン | オマーン | 87.01 | 9.50 | -0.95 |

出典: 燃料油脂新聞

東工取原油1月限最終決済価格は87.96(燃料油脂新聞の発表形式に合わせ、小数点以下第3位で四捨五入)、アラビアンスーパーライトは東工取調べ。

2. 説明

世界の原油取引について

世界の原油取引は、消費地ごとにアジア、北米および欧州という三つの市場が形成されています。アジア市場においては、流通する原油の大部分を中東産原油が占め、その基準となっているのがプラッツ社の発表するドバイ原油およびオマーン原油の価格です。そのプラッツ社が OTC 市場で採取する価格に影響を与えているのが、東京工業品取引所の中東産原油の先物価格です。このことから、アジア市場においては、東京工業品取引所の先物価格が指標となっているといえます。

北米市場では、ニューヨーク商業取引所 (New York Mercantile Exchange : NYMEX) で取引されている WTI 原油先物の価格が指標価格となっており、域内で流通しているほとんどの原油は WTI 価格に連動して決定されています。

欧州市場では、ICE Futures Europe (旧 IPE) で取引されているブレント原油先物の価格が指標となっています。

アジア市場における価格決定方式

アジアは中東産原油への依存度が高く、北米の 10.9%、欧州の 16.4% に比べ、アジア・太平洋地域全体で 58.2% (2006 年・BP Statistical Review of World Energy 2007 より本所算出)、日本だけでみますと 89.2% (2006 年・経済産業省『資源・エネルギー統計』) にも達します。アジア向け中東産原油の価格決定にあたり、産油国は、価格報告機関のプラッツ社がアセスメントするドバイとオマーン原油価格を基準として採用しています。

この指標価格をベースに、産油国は個々の油種について、性状格差が反映された調整項を設定し、GG(政府間)取引または DD(直接取引)で用いる販売価格を決定しています。例えば、サウジアラビアの場合、船積み前の時点で[ドバイ・オマーン月間平均価格 ± 調整項(性状格差等勘案した具体的な数値)]という価格算定式を定め、後でドバイとオマーン原油の月間平均価格を代入して価格を決定しています。

アジア向け中東産原油の基準となっているプラッツ社の原油価格は、東工取においても原油先物の最終決済価格算出時の基準として用いられていることから、プラッツ価格と東工取原油先物価格の相関は非常に高い状況にあります。また、プラッツ社がアセスメントを行う際に参考とするスワップ OTC 市場において、東工取の先物価格をスワップの対象とする取引が増えてきていることから、アジア向け中東産原油の価格形成における東工取原油先物価格の影響力は益々高まっています。

したがって、東工取の先物価格がアジア市場における中東産原油価格の指標になっているといえます。このように国内外において石油の現物価格は先物価格が指標となって価格形成が行われているのです。

以上